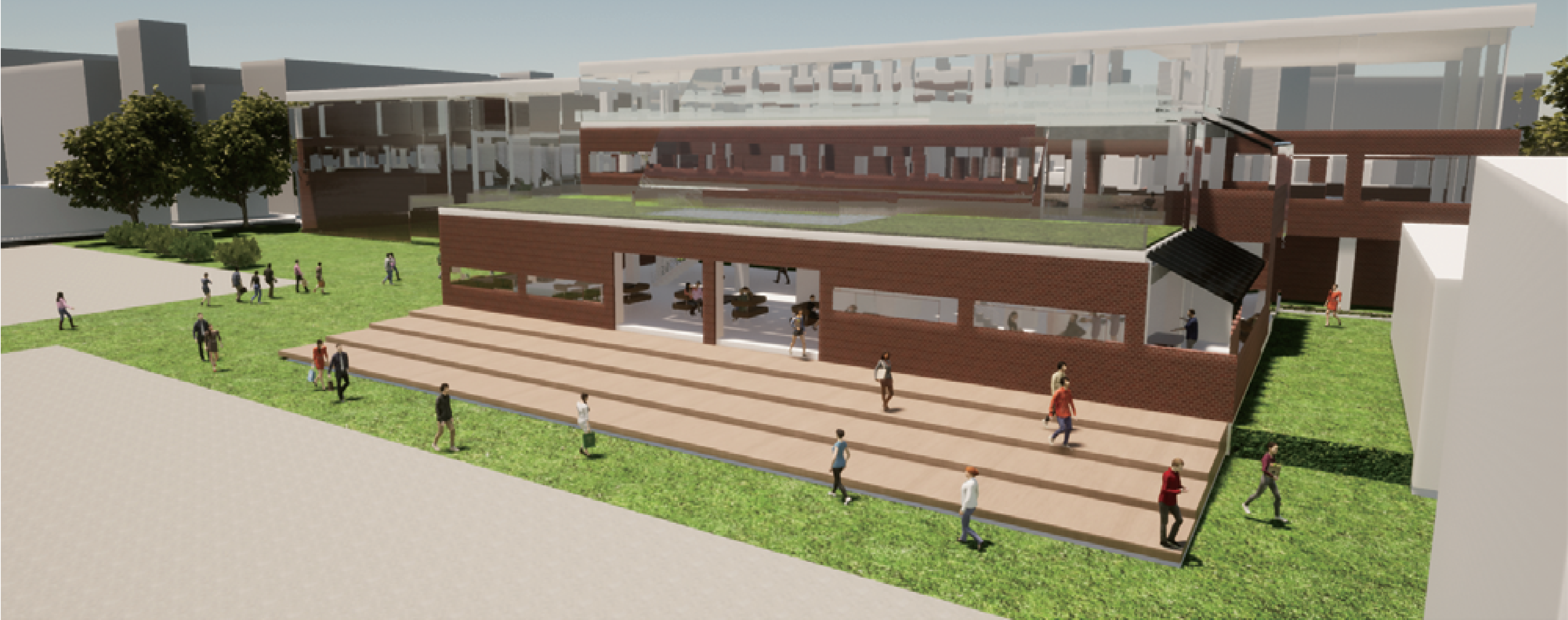


# 交わる美術館 - 岡崎市美術館リノベーション -

- 設計 -

A18AB041 喜多文香



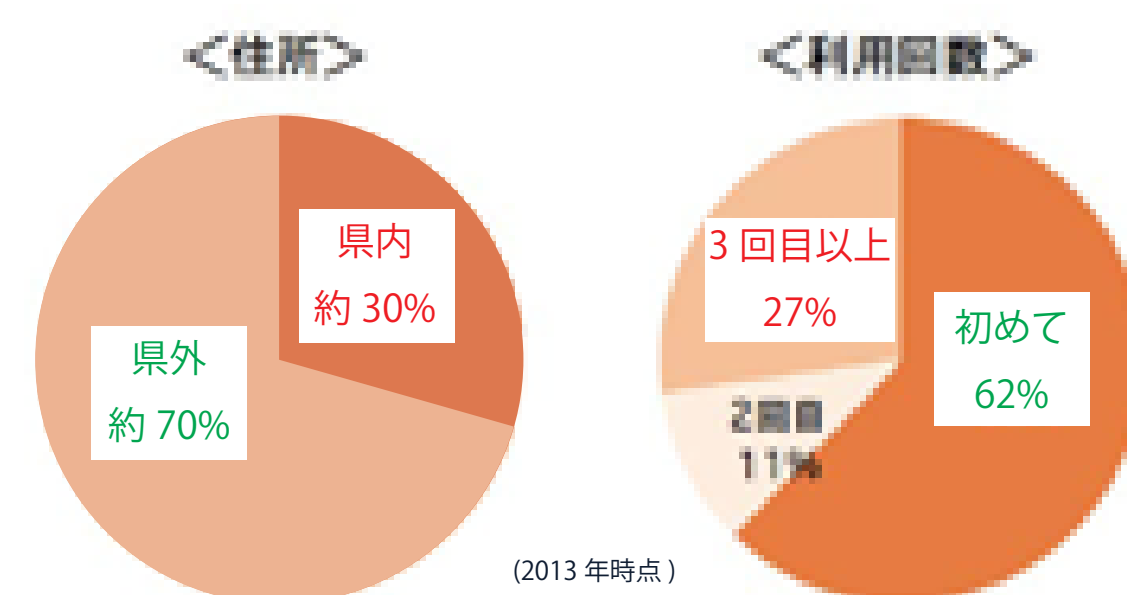
## 1. 研究背景

- 岡崎の観光スポット (229 件) -



岡崎市は人口約 38 万人の中核中核都市に指定されており、自然豊かな反面、商業施設や観光にも力を入れている。市の中心の駅である「東岡崎駅」の北側に観光地が集中しており、駅の南側は観光地が少ない。そこで東岡崎駅の南側に観光拠点を設けることで観光客を南側にも引き込み、市全体に活気が溢れることが望ましいと考える。

- 近年の美術館とまちづくり -



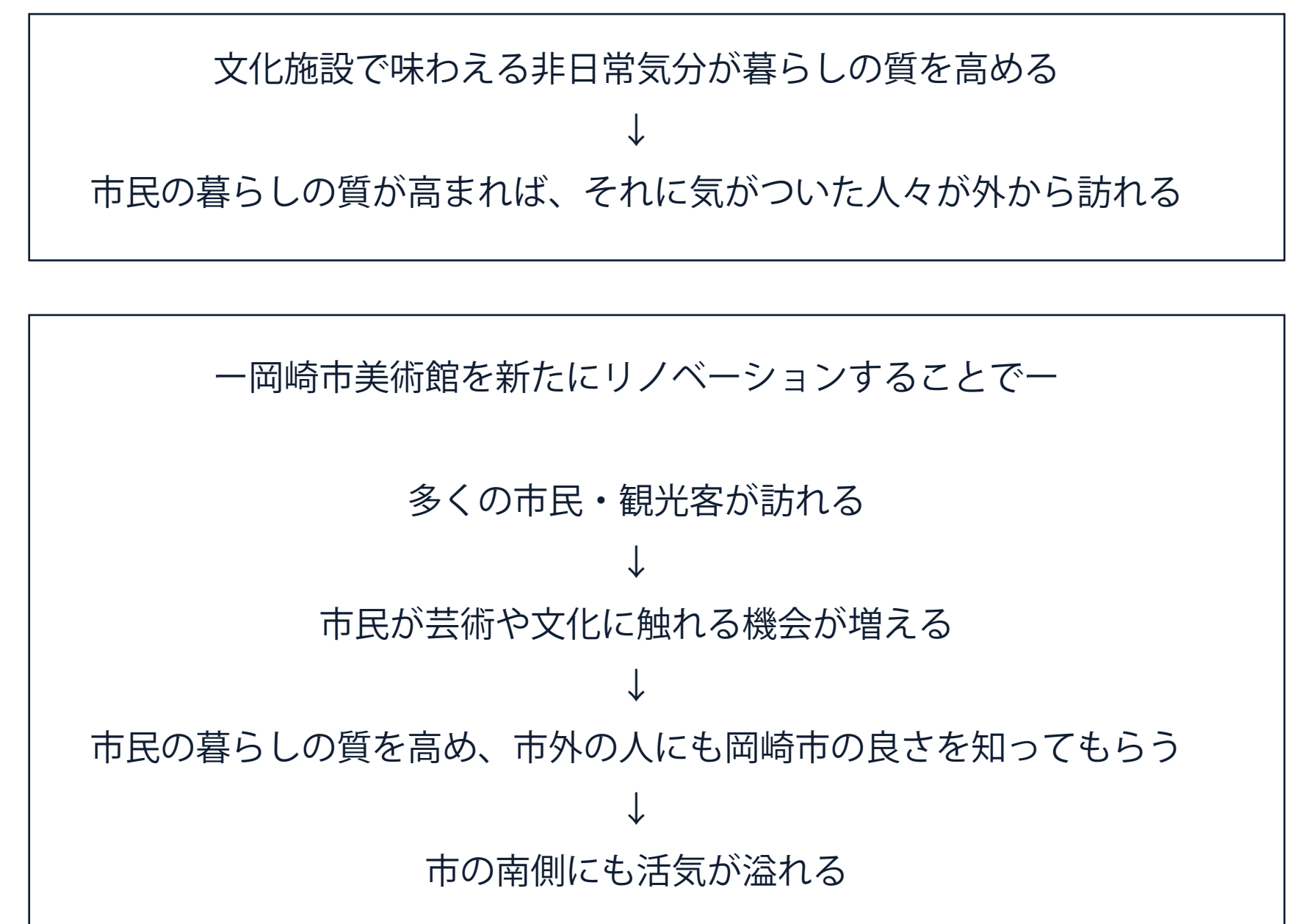
3 割のリピーター率の高い地元の人々  
7 割の県外の旅行者  
3 割の地元の人々と美術館の織り成す出来事を  
県外の旅行者が見に来る  
↓  
市の良さを県外に広める

これまでの美術館の目的→文化財の保管と公開  
2000 年以降の美術館の目的→文化財の保管と公開  
+ まちづくりやまちの活性化を促すプログラム

- 金沢 21 世紀美術館の取り組み -  
・美術館を中心にした美術プログラムによる、まちづくりや町の活性化  
・交流人口の増加による息の長い観光政策

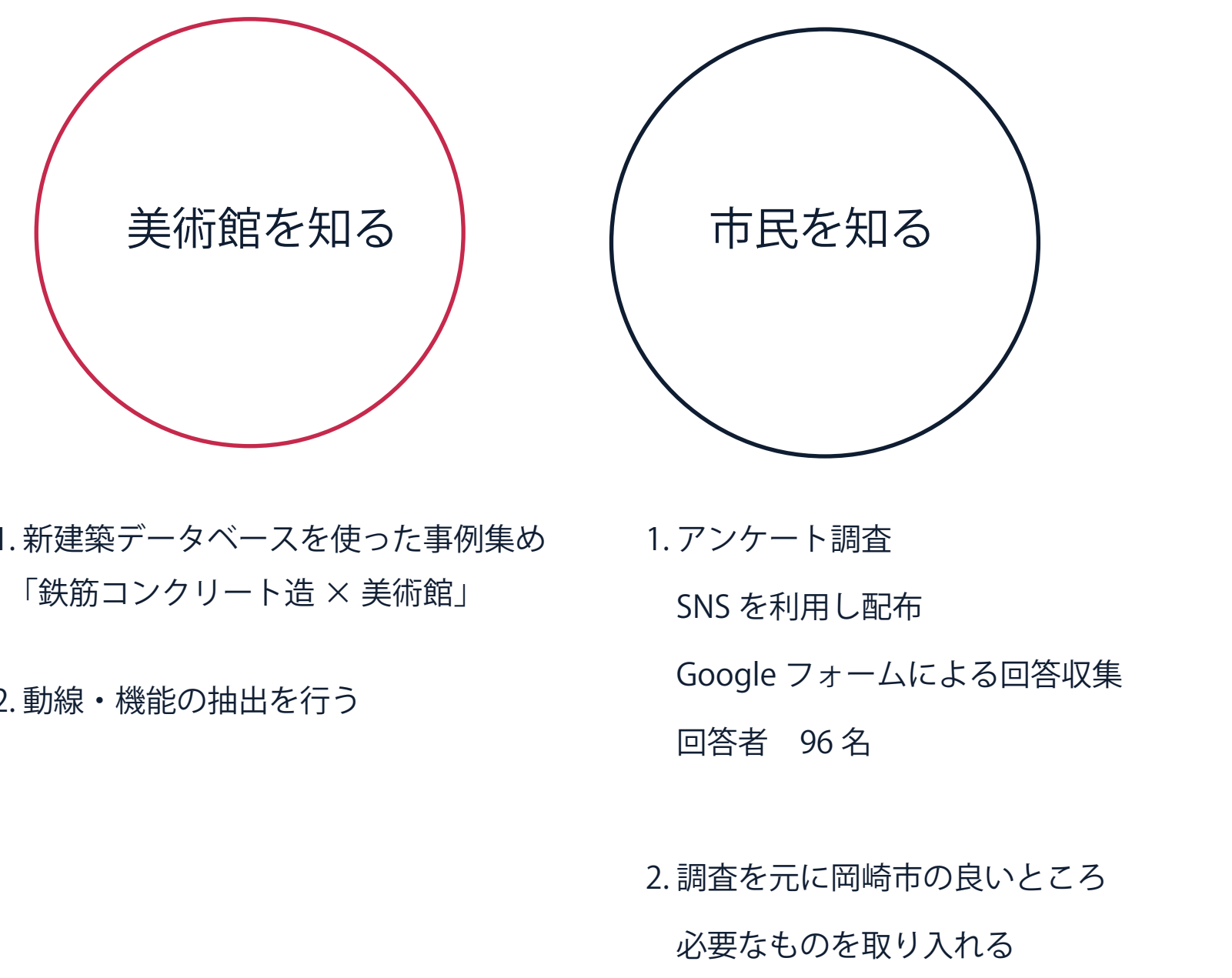
秋元雄史の『美術館の文化プログラムによるまちづくりと文化観光』の論文より、近年の美術館の働きが作品の保存だけでなくまちづくりやまちの活性化を促す働きをしていることが分かった。この働きが岡崎市を訪れる旅行者に良い影響を与え、岡崎市の良さを県外に広めることができる。

## 2. 目的





3. 研究構成・方法

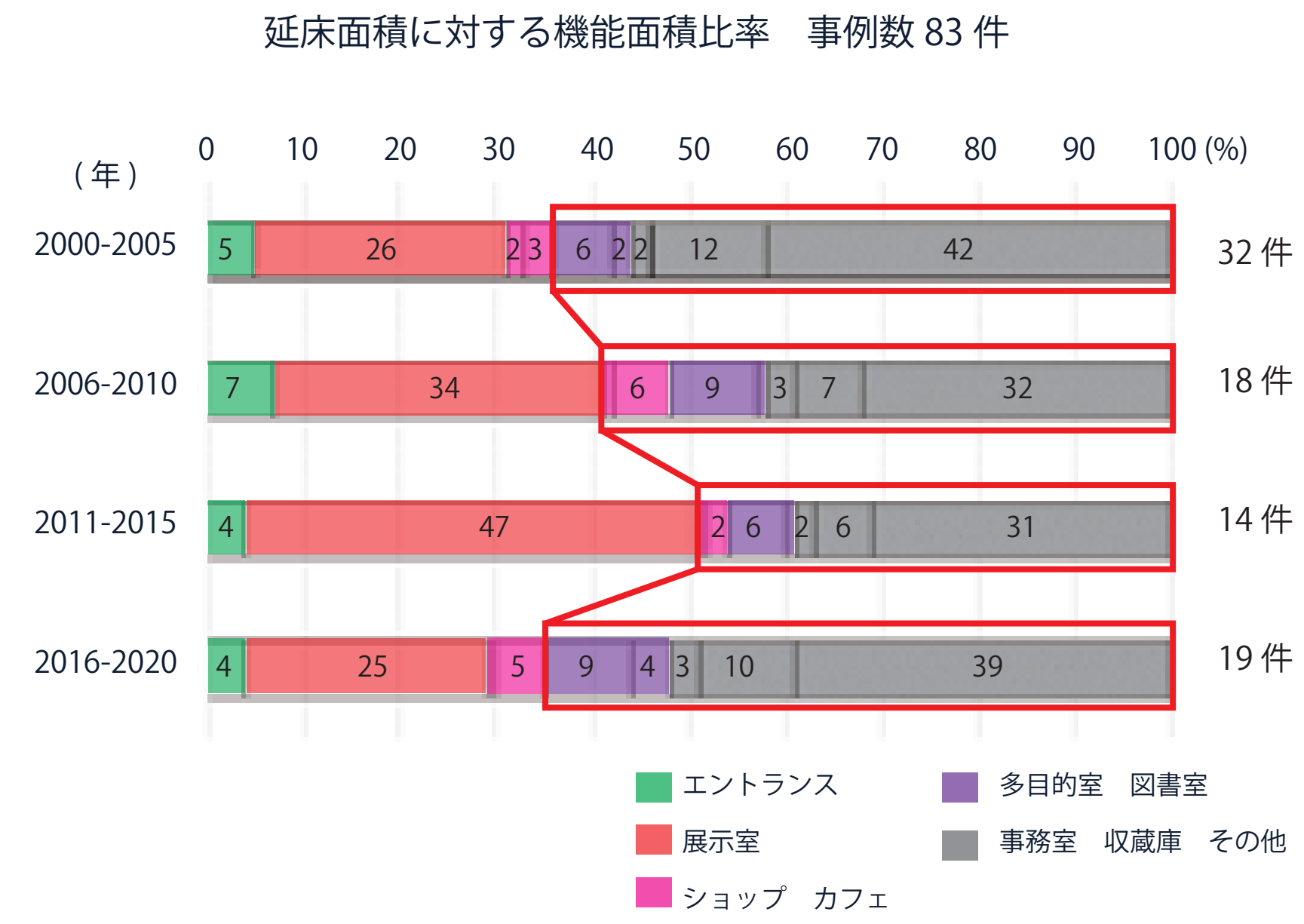
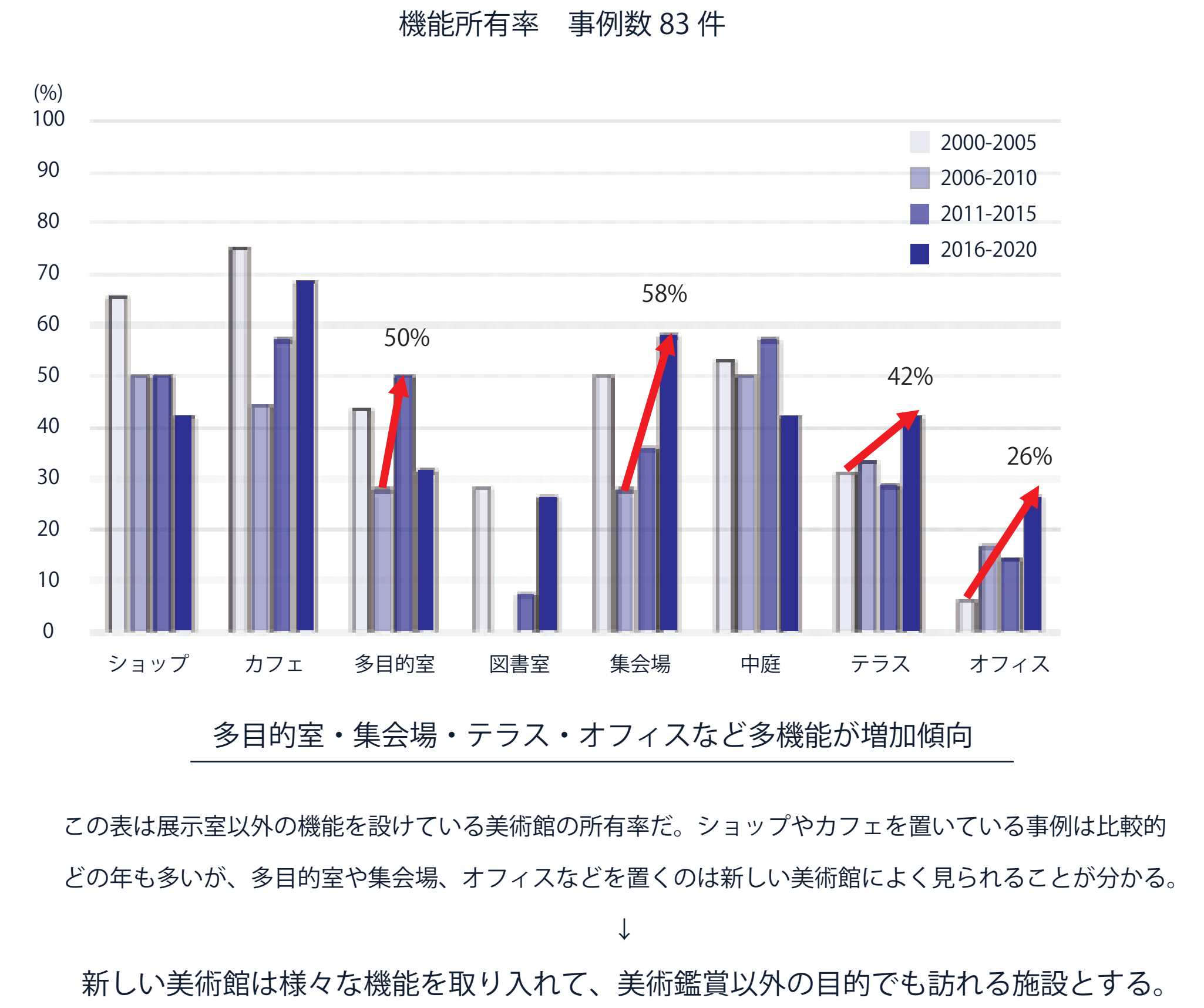
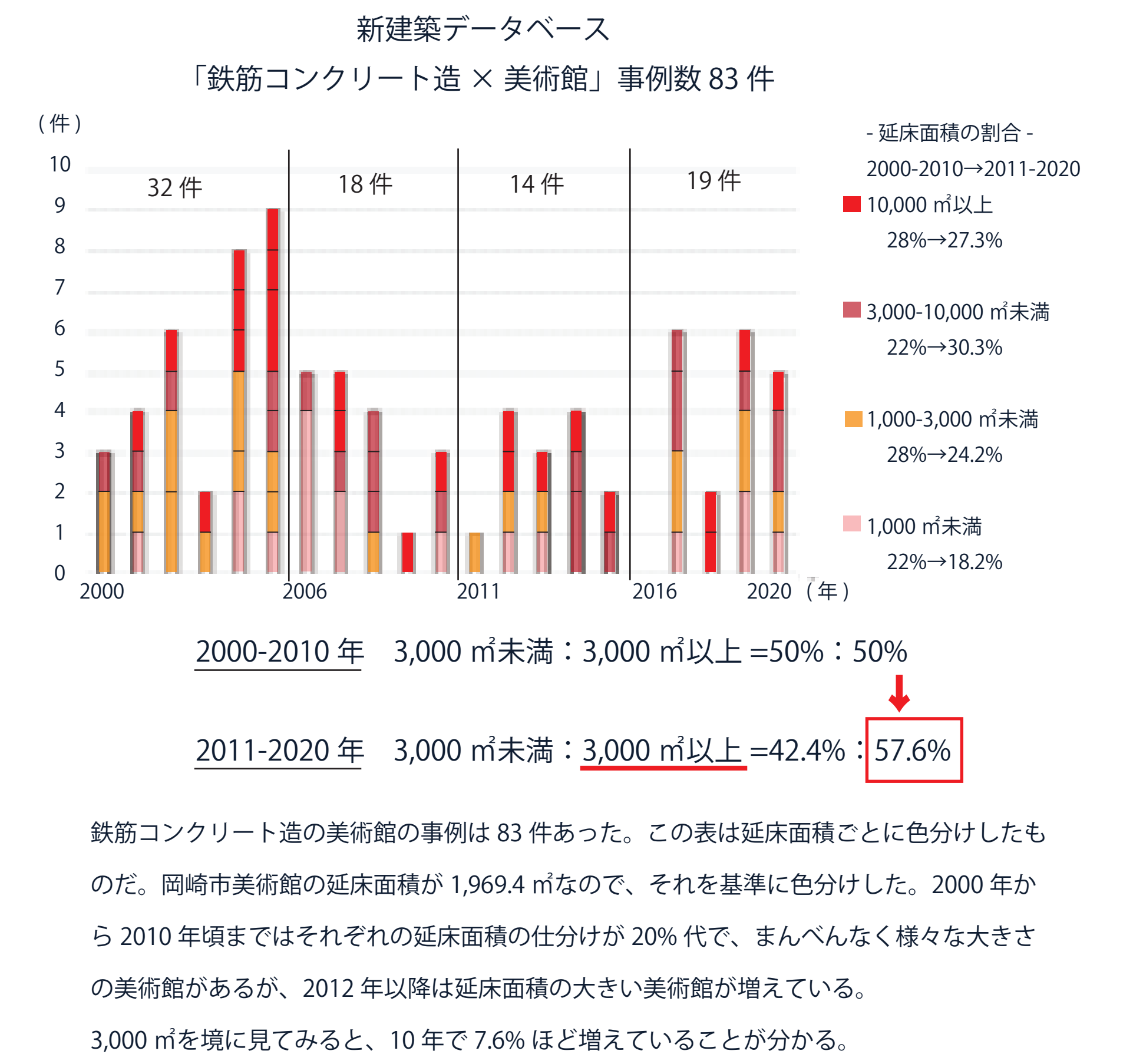


岡崎市美術館をリノベーションするにあたり、「美術館を知る」「市民を知る」の二点について研究を行った。

■美術館を知るために、新建築のデータベースで岡崎市美術館と同じ鉄筋コンクリート造の美術館を調べ、動線・機能の抽出を行った。

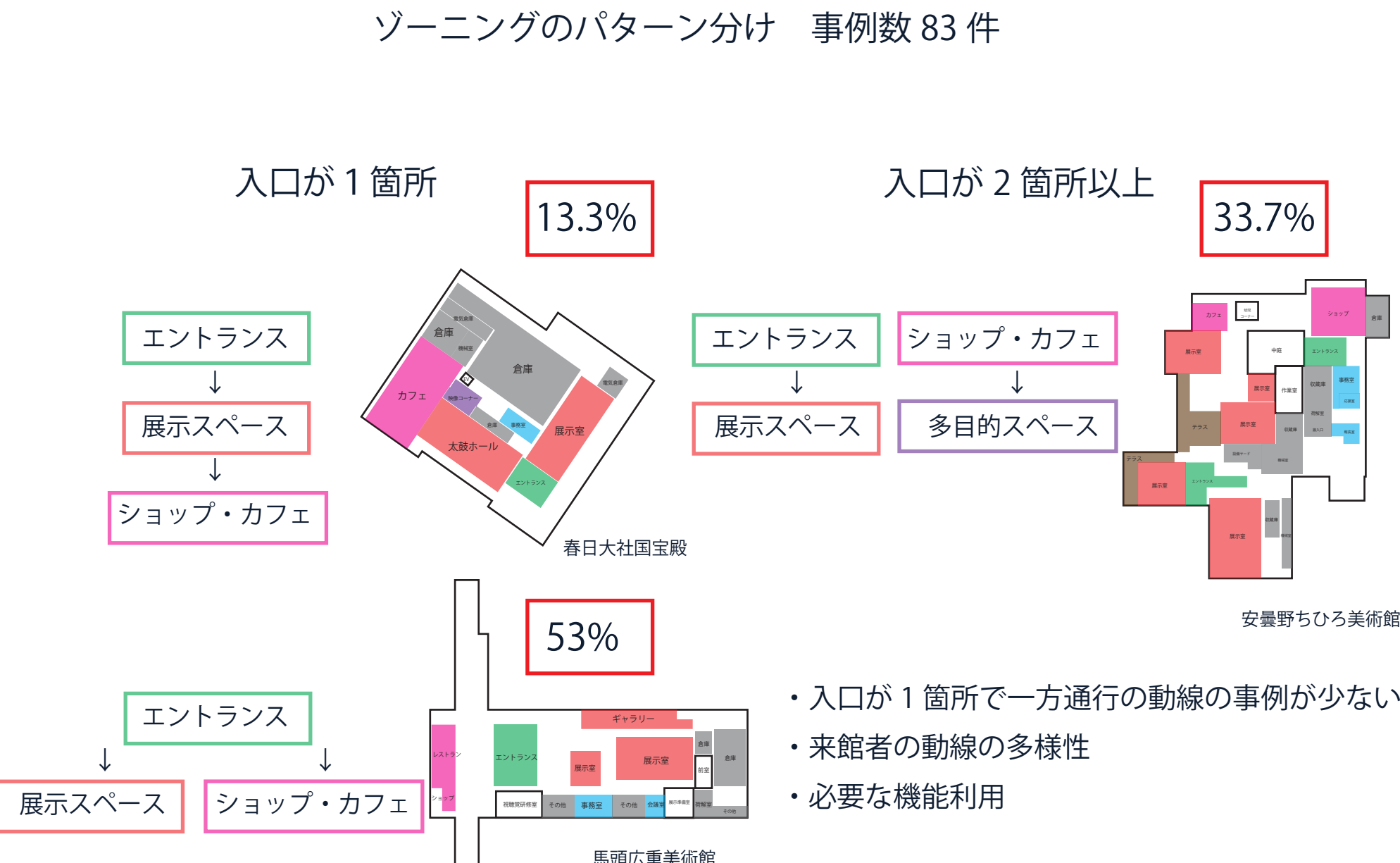
■市民を知るために、アンケート調査を行った。SNS を利用し配布、Google フォームによる回答収集を行った。（回答者 96 名）

4. 調査結果

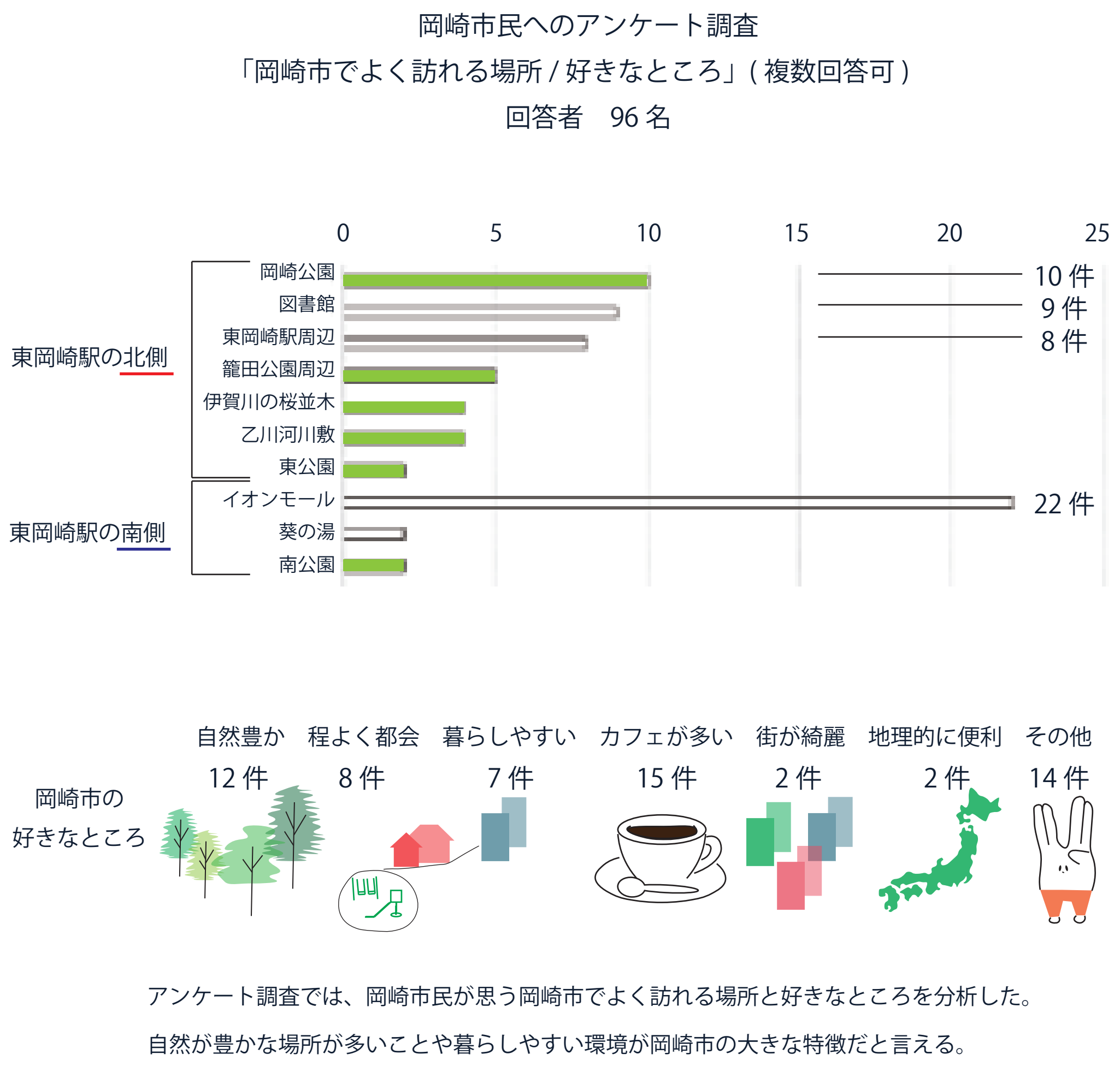


延床面積の増加傾向 × 多目的・その他の機能の増加

これは年代ごとの延床面積に対する機能面積比率だ。展示室はどの年も大きな面積を占めているが、特に 2011-2015 年が大きい。また、多目的室や図書室、その他の機能（集会場、ホール、オフィスなど）は 2016-2020 年が大きな面積を占めている。近年の美術館の傾向として延床面積の大きい美術館が増えていることから、多目的空間も大きな面積を占めている。このことから、美術館を設計するに当たって、展示室だけでなくその他の機能の働きも重要だと分かった。



83 件ある美術館事例のゾーニング分けをしたところ、入口の動線のパターンが主に 3 種類あることが分かった。入口が 1 箇所で一方通行の動線が全体の 13.3%、入口が 1 箇所でそこから自由になる動線が全体の 53%、入口が 2 箇所以上あるものが全体の 33.7%。このことから来館者に合わせた動線のある空間作りが必要だと考えた。岡崎市美術館も 2 つの建物に分かれているので入口を 2 箇所以上設けるパターンにして、人々が利用しやすい建物にする。





5. 美術館概要



- 岡崎市美術館 -  
所在地：岡崎市明大寺町茶園 11-3  
構造：鉄筋コンクリート構造  
階数：2 階建て  
延床面積：1,969.4 ㎡  
1972 年 開館  
2008 年 旧図書館が美術館の東館になる



北東から見る

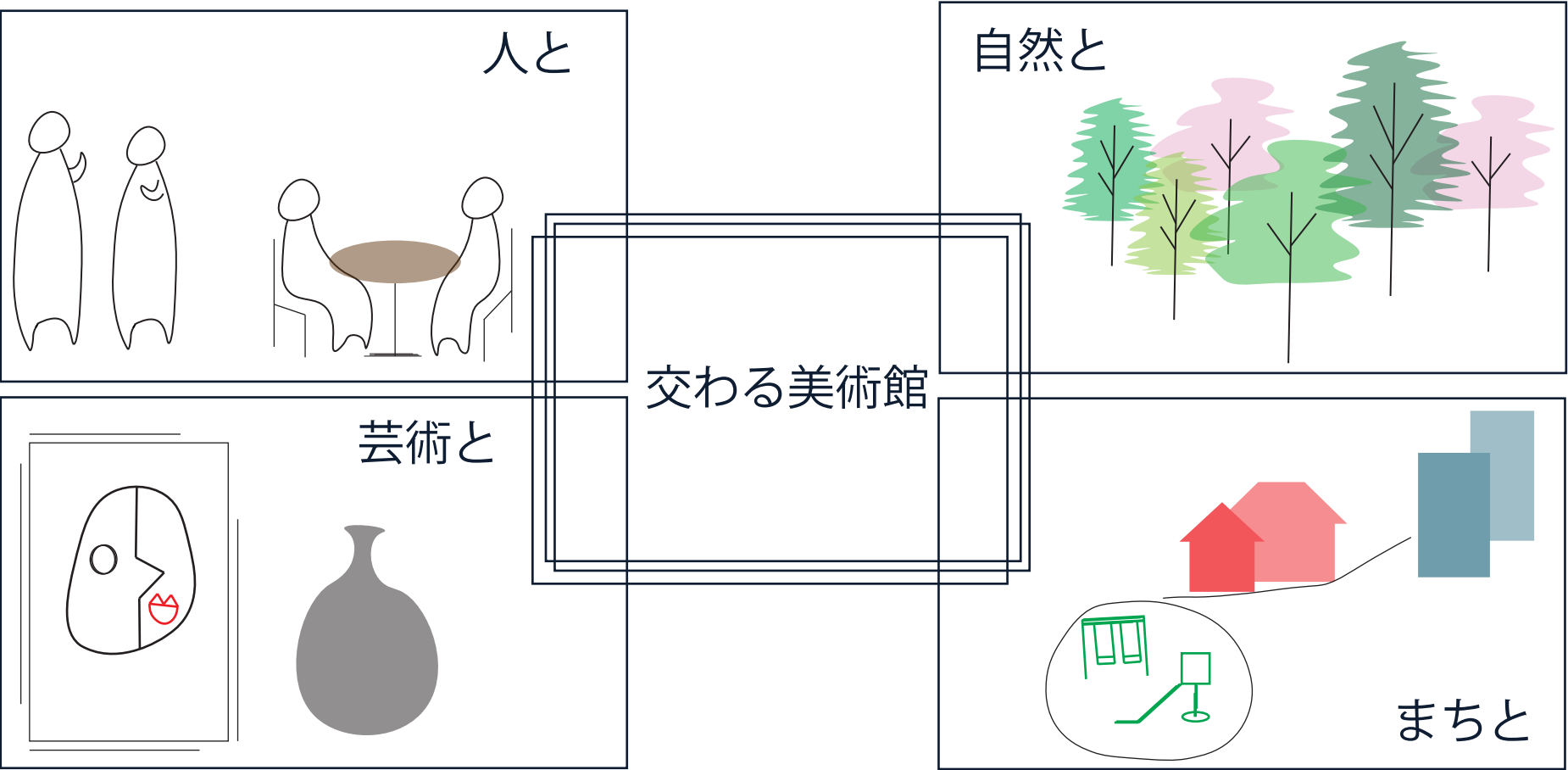


メインエントランス



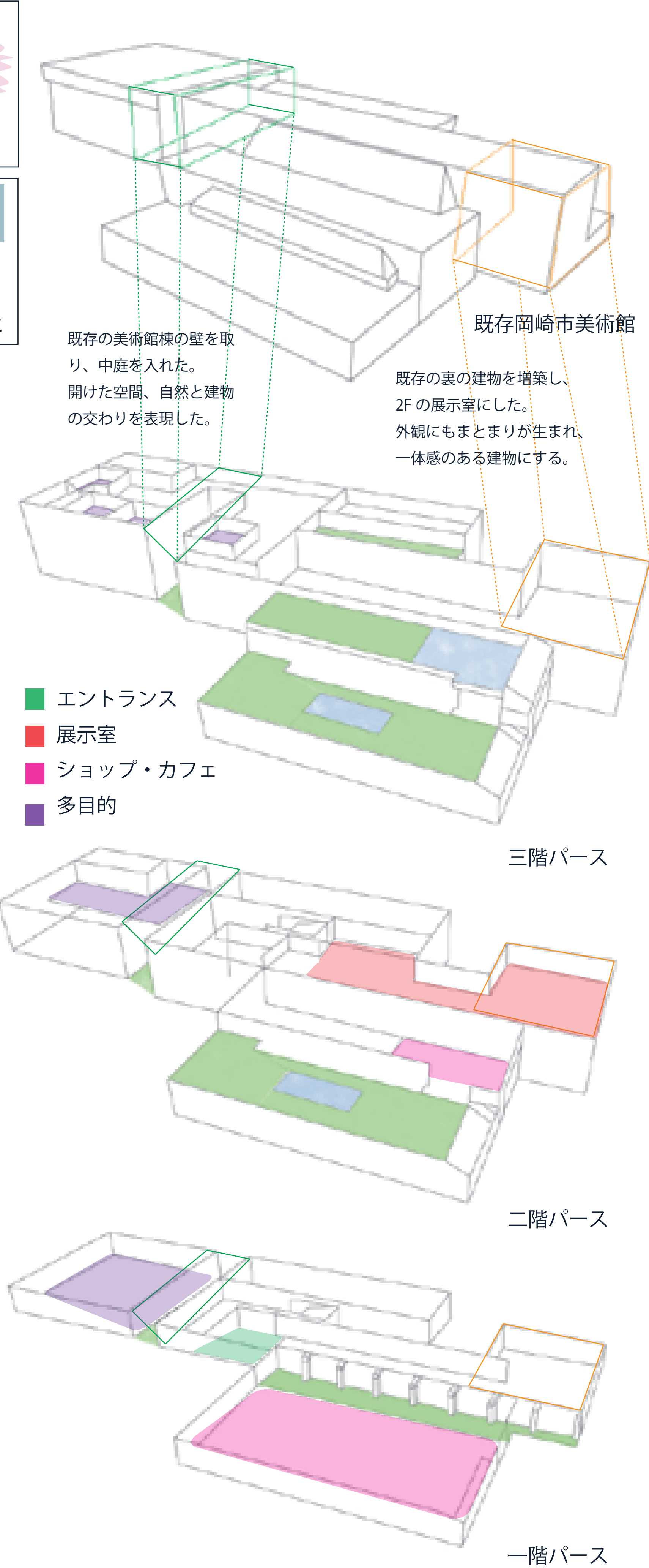
ワークショップ側エントランス

6. コンセプト



自然と建物と人が交わる空間を作る  
様々な世代の人が交流できる場所  
文化財や作品の保管だけでなく街とつながる美術館

7. ダイアグラム



- エントランス
- 展示室
- ショップ・カフェ
- 多目的

A-A' 断面図 1/200

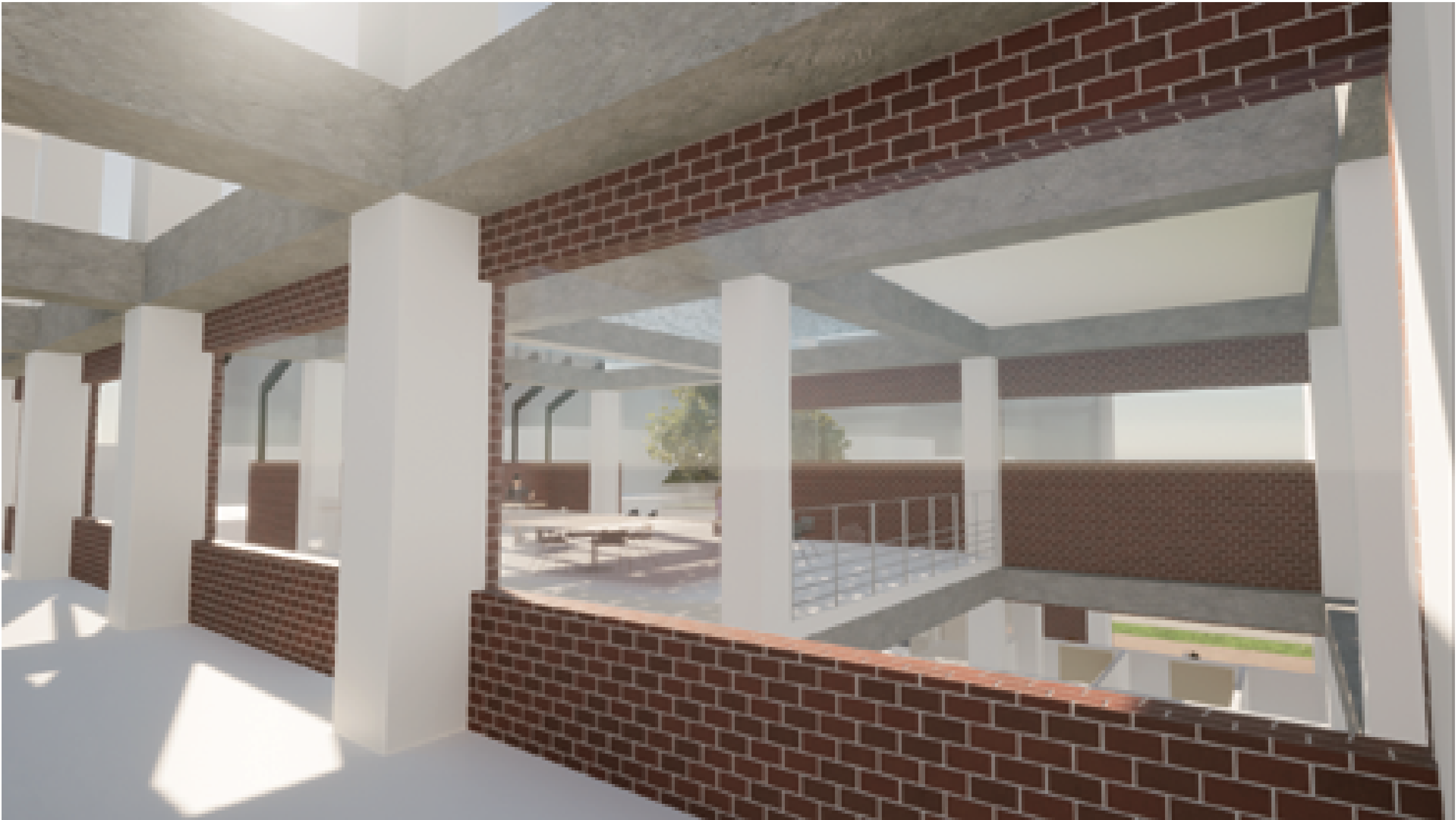
B-B' 断面図 1/200

C-C' 断面図 1/200

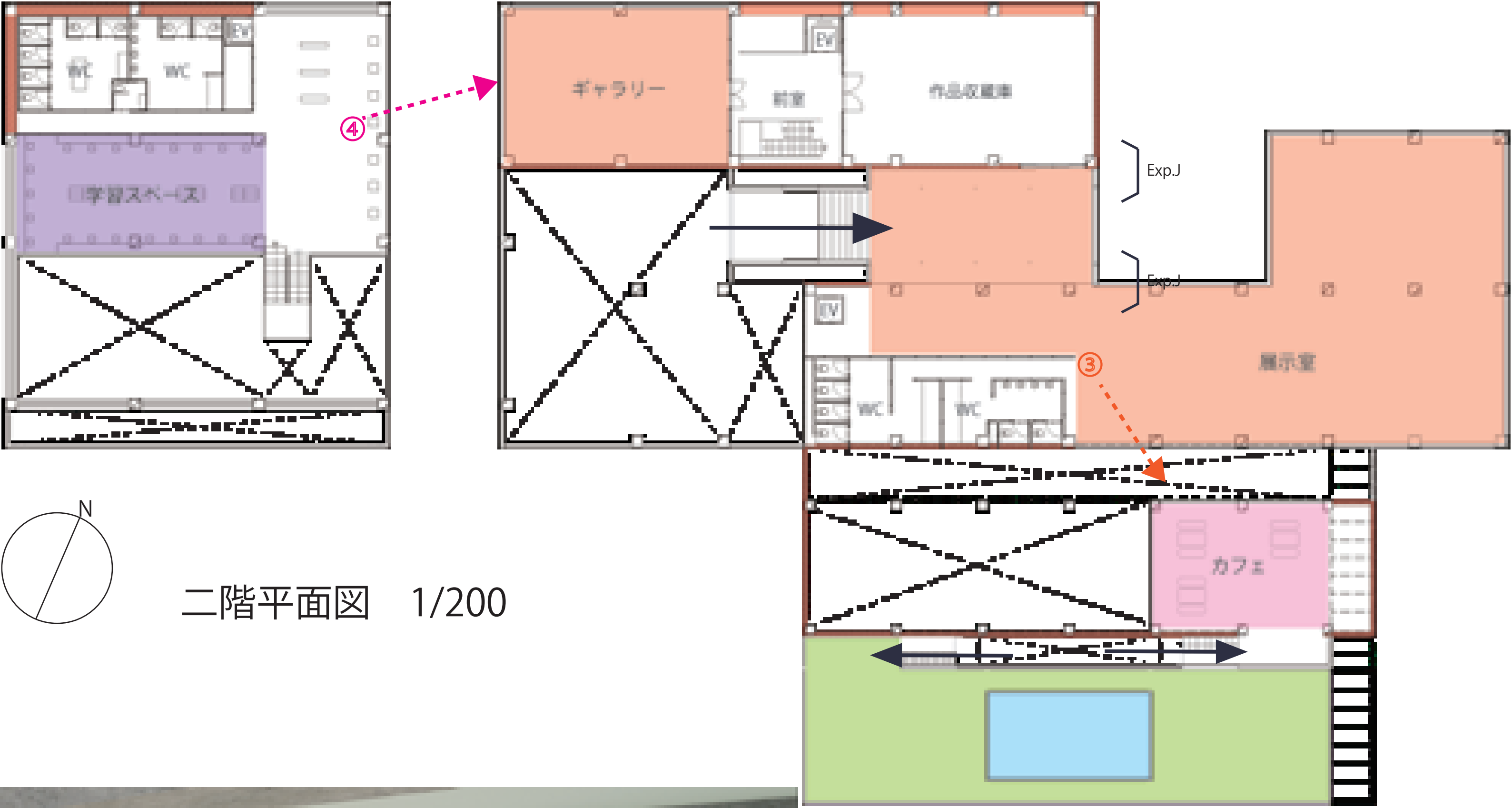




大階段を上がって、展示室に入る  
半透明の壁からたくさんの光を受けた階段で非現実的な空間を作る



③ 展示室からカフェを見る  
別棟になるが建物と人とのつながりを感じる



カフェの2階席を設けて目線を変える  
賑やかな空間を抜け、少し落ち着いた空間で緑を感じる

カフェ棟の屋根を芝生にし、真ん中に水を張る  
スラブを半透明にすることで下のカフェ席に水の揺らめきを感じさせる

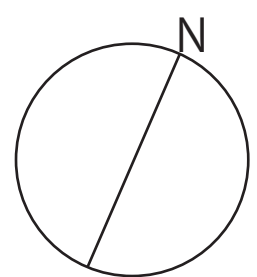
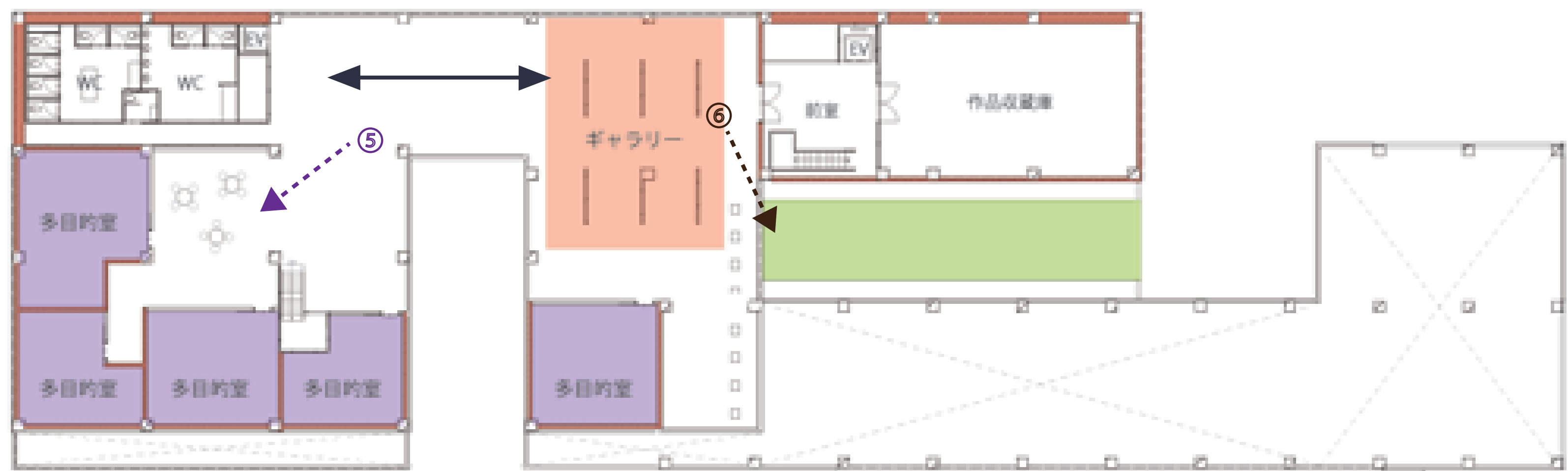
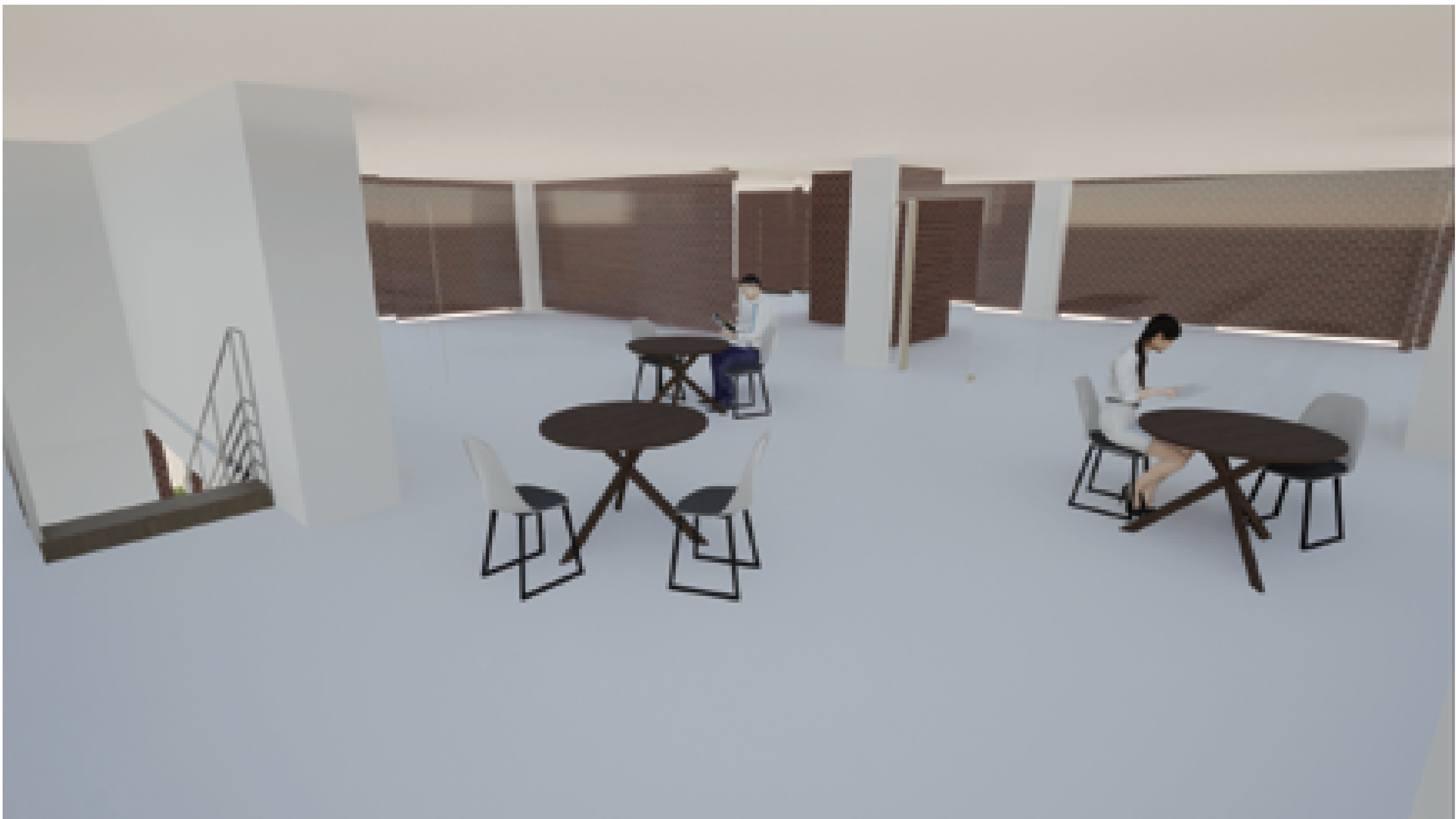


④ 学習スペースから2階ギャラリーを見る  
別棟かつ入れない空間だが、離れていても芸術と交わっている空間





多目的室と市民ギャラリーを設けて多くの世代の人が訪れる空間を作る  
図書館から入り、1階2階では繋がっていなかった棟同士が交わる

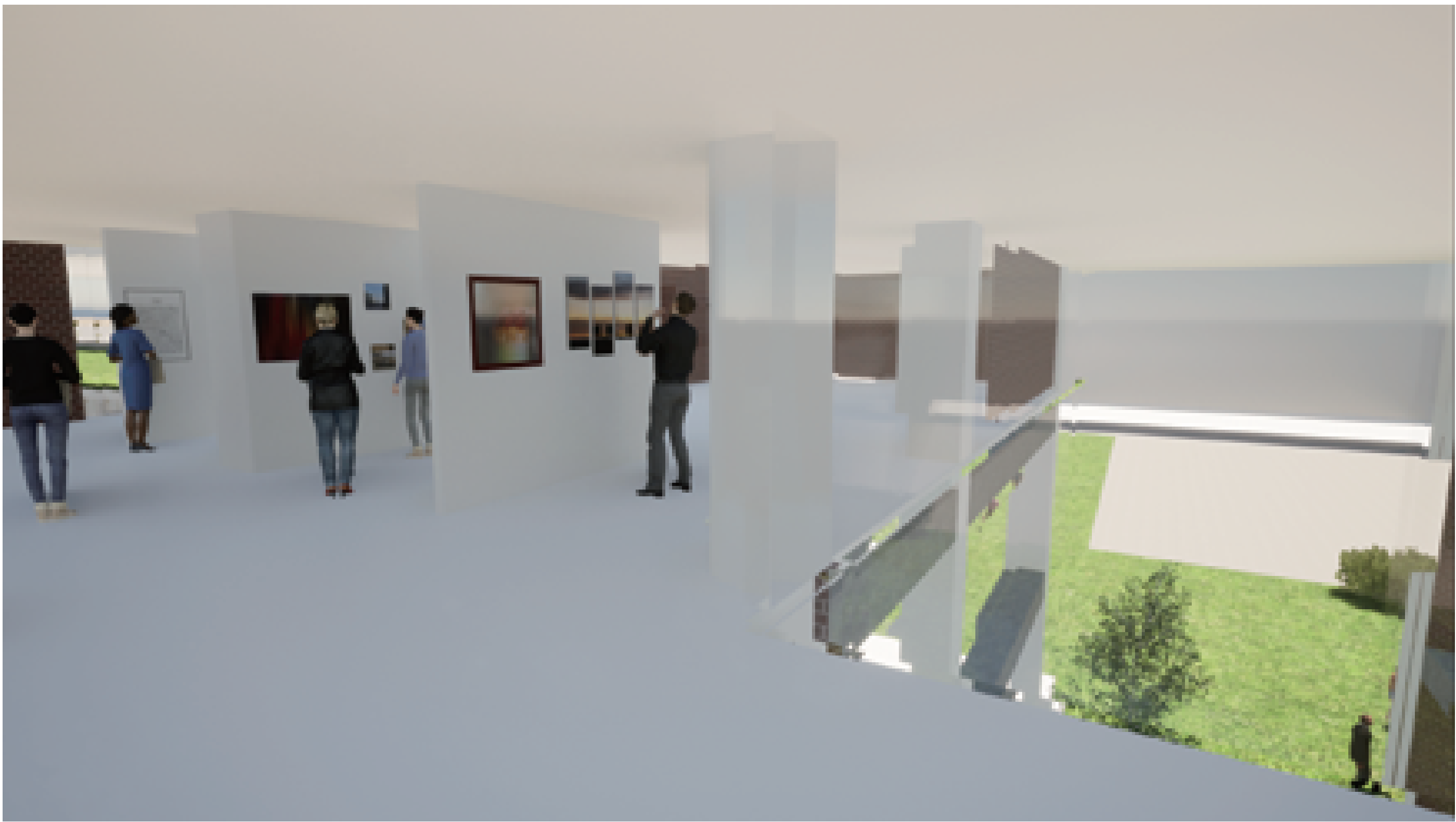


三階平面図 1/200

⑤ 多目的室を見る  
岡崎市美術館の特徴でもあるレンガ調を意識した壁にした。  
部屋の前の空間には開けた交流スペースとなる人同士が交わる空間



カフェ側の棟の屋根に芝生と水を張り、自然と建物の交わりを表現した。1階の屋根は上に上がることができ、人々の交流の場にもなる。自然豊かな岡崎市ならではの交流の場になることを期待する。



⑥ 市民ギャラリーと自然を見る  
人と自然と芸術が交わる空間